

白樺沢・ケサ丸沢

平成24年8月19日

L 白土 悟

記録 白土 久美子

中村 (横浜蝸牛山岳会)

佐藤 (横浜蝸牛山岳会)

私の友人・中村さんに沢のお誘いをしてみたところ、土日は仕事のことが多いのだけど今回はちょうど休みが合うとのこと。彼女の友人も加わり、4人で谷川へ行くことに。中村さんとは高校からの付き合いで、一緒に山へ行くのはざっと5年ぶり以上なので、楽しく行こー☆と張り切って出発。2人を途中でピックアップして、水上の道の駅で前泊した。

朝、白毛門の駐車場へ移動し、ここから湯檜曾川へ沿って林道、登山道を歩いて武能沢を横切るところで沢靴を履き、入渓。

武能沢を下降し、湯檜曾川本流へ入るとずいぶん水が少ない。魚止めの滝は右岸の残置ロープで巻いた。遡行図だとその後のゴルジュもそのまま巻いてしまうのだけど、下りられそうだったので途中でゴルジュの中へ下りる。水量が少なかったため水流の中を突破。暑いので水が気持ちよい。ゴルジュを抜けると河原になり、本流が右にカーブしたところが白樺沢の出合で、ここからまず白樺沢に入る。ナメの上に倒木が堆積し、ちょっと残念な印象。ここでなんと雪渓が登場。1本目の枝沢が白樺沢に流れ込むところにスノーブリッジになった雪渓があった。結構大きい。もう8月も半分が

過ぎたというのに、やはり今年は雪が多い。一人ずつ足早に雪渓の下を通過し、ちょっと先の二俣で休憩していたところ、「どーん」と音がして雪渓の一部が崩れた。ひえ～～(+o+)



【もう8月も終わりなのに】

二俣の左にかかるのが白樺沢の30m滝。やはり写真で見るとより水量が少なく、スタレ状になっていた。ここは右に入り、ここからケサ丸沢となる。

すぐにスラブの2段25m滝が登場。通常は左から巻くようだけど、夫が右のブッシュまじりの壁を登ってみた。ハーケンを打ち、横に長いテラスに出たところで右往左往。その先、スタンス・ホールド共無いらしい。断念してローアダウンで下りてきた。ここで佐藤くんが「行ける」と涼しい顔をしていたので交代。テラスから左へ登って抜けてしまった。おやお頼もしい。上部にハーケンを打ち、お助け紐を垂らしてくれた。夫、中村さんがタイプロックで登り、私が引き上げで登った。ハーケンを回収しようとしたけど、すっかり食い込んでしまい、残置になってしまった。



【2段25m】

続くナメ50mは右から登った。その後
トイ状8mは佐藤くんがリード。

がよく、こんなに気持ちのよい沢は久しぶりだ。

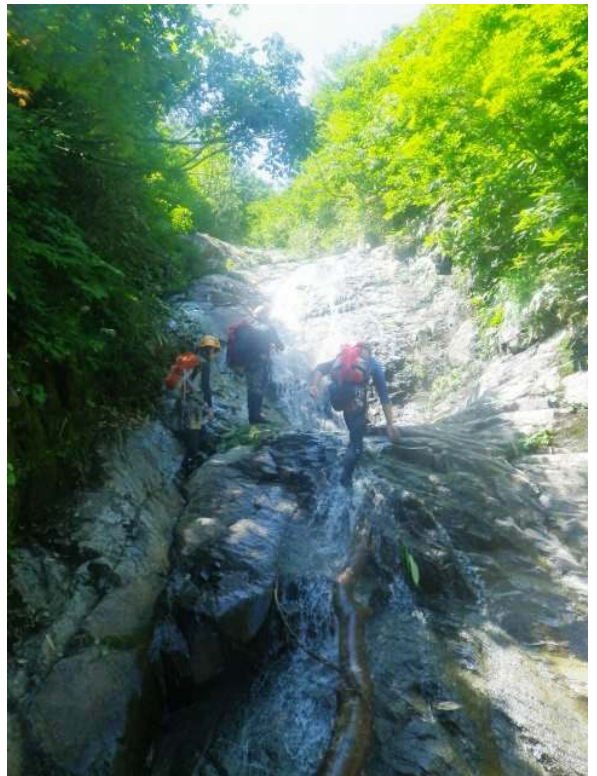


【青空が気持ちよい】



【トイ状8m】

ここからは10m前後のナメ滝が続き、
水に浸かって直登もよし、巻くもよしで水量が
少ないのでそれぞれが難しいところ、
易しいルートと好きなように登っていける。
フリクションはよく効くので楽しい。天気



【楽しい滝が続く】



な登山道だから荒れているかと思っていたけど、JRの巡視路だからかとても整備されていた。

また機会を見つけて楽しく遡行できればと思った一日だった。

【溪に遊ぶ】

せっかくの暑い日なのに泳ぎがなく、そういう意味では残念だったけど、連瀑帯の上部に半径2mくらいのお風呂みたいな釜を持つ滝があったので、釜に入らなくても登れるけどせっかくなので浸かって取り付いた。念のためロープを出したけど、特に問題はなかった。



【お風呂みたいな釜】

わいわいと登り、ぬるぬるの8m滝を越えるといよいよ源頭の雰囲気。登山道（旧道）が沢を横切るがわかりにくいとのことだったが、しっかりした道なのでちゃんと発見できた。足元の石にテープが巻き付いていた。靴を履き替えて下山。マイナー